



ブロードバンド特集に寄せて

常務執行役 ネットワークサービス本部長

運川博昭

今、インターネットはブロードバンド関連技術の発展により、新しいステージを迎え、高速かつ大容量の情報のやり取りが可能になりました。このことにより、例えばサッカーの世界カップや有名アーティストのLive映像がインターネットで世界に配信されるようになってきました。また、双方向性、常時接続、モバイルなどネットワークの利用形態を変えつつあります。さらに、システム的设计・利用に関してもハードウェアやネットワークなどの制約のない環境を実現しようとしています。

このようなブロードバンドの利便性を生かした社会実現のためには、それを支える「高性能・高品質・高信頼」技術が必要です。

本特集では、プロダクト、ブロードバンドインフラストラクチャ、ブロードバンドサービスという三つの観点から、今後のブロードバンド社会実現の基礎となる富士通の技術や取り組みを紹介いたします。

(1) プロダクト

大量の情報を高速で通信し、しかも双方向・常時接続で送受信するブロードバンド・インターネットの本格化は、データトラフィックの激増に対応するための新しい製品思想、製品技術の発達を必要としています。今回は、ネットワークアーキテクチャ、光ネットワーク技術、さらにサーバ・ストレージ・ネットワークを三位一体としたプラットフォームコンセプト“TRIOLE”などブロードバンド時代のネットワークの基盤を支えるプロダクトの最新技術、今後の展開を紹介します。

(2) インフラストラクチャ

利用者が、安心して当たり前のようにブロードバンドを利用できる社会を実現するためには、高信頼なインフラが必要です。一方で、急速に進歩・変化するテクノロジーは、企業の考えを、データセンタやネットワークなどのインフラ設備を、「自ら投資・保有する」という考えから、「持たざる運用」という考えに変化させつつあります。今回は、B-IDCなどを通じ、企業の持たざる運用を実現するアウトソーシングサービスや、ADSLやFTTHを利用したB-FENICSネットワークサービスなど、サービスインフラの技術、取り組み事例を紹介します。

(3) サービス

企業や消費者が、ブロードバンドによる利便性を享受するためには、プロダクト、インフラをインテグレーションしたサービスの創造が不可欠です。今回は、最近注目を集めているサービスの中から、企業活動を効果的に行うためのポータルサービス、データベースなどの情報を効果的に利用したコンテンツサービス、企業間の電子商取引を実現するB2Bサービス、inBやB2Cに向けたASPサービス、ストリーミング技術を利用した日本初のアプリケーション配信サービス、@niftyを利用したコンシューマ向けブロードバンドコンテンツサービスなど、各種サービスの課題、富士通の取り組み状況、さらにIPv6など最新の技術動向について紹介します。

「ブロードバンドを利用した豊かな社会の実現に向けて」今後も、富士通はプロダクト、インフラストラクチャ、サービスの研究開発・提供を幅広く、積極的に進めてまいります。